

2025年度 第1四半期決算説明資料

対象期間：2025.4.1-6.30

2025年8月6日

明治ホールディングス株式会社

I R 部を管掌しております、CFOの菱沼でございます。

それでは、2025年度 第1四半期決算について、当社ホームページに開示しました「第1四半期決算説明資料」にそってご説明いたします。

本資料をご覧いただいている方は、1 ページ目をご覧ください。

2025年度 第1四半期 連結決算のハイライト

(億円)	24年度 1Q実績	25年度 1Q実績	前年同期比	上期計画 進捗率	25年度 上期計画
売上高	2,787	2,735	△1.8% △51	46.4%	5,890
営業利益	204	177	△13.4% △27	44.9%	395
営業利益率	7.4%	6.5%	△0.9pt	—	6.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	139	100	△27.6% △38	44.9%	225
E P S	50.23円	37.27円	△12.96円	—	82.41円

● 1Q実績：減収減益

- ・ 食品は売上高・営業利益ともに前年同期並み、医薬品は減収減益
- ・ 四半期純利益は減益。営業利益段階での減益に加えて、税金費用の増加が主な要因

第1四半期の連結売上高は2,735億円、前年同期比1.8%減となりました。
営業利益は177億円、前年同期比13.4%減となりました。
医薬品セグメントの減益が影響しました。

四半期純利益は100億円、前年同期比27.6%減となりました。
営業利益の減益や、食品セグメントの税前利益増に伴う税金費用の増加が主な減益要因となります。

なお、前年同期比では大幅減益に見えますが、上期計画との比較では、営業利益・四半期純利益のいずれも堅調に推移していると捉えています。

食品：2025年度 第1四半期 決算概要

(億円)	24年度 1Q実績	25年度 1Q実績	前年同期比	上期計画 進捗率	25年度 上期計画
売上高	2,259	2,248	△0.5% △11	48.4%	4,647
営業利益	135	136	+1.1% +1	46.1%	297

営業利益 増減分析

24年度1Q実績	135		
売上増減		+41	： 価格改定効果+92 数量やプロダクトミックスの変動など△51
原価の変動		△41	： 原材料コスト増△45（国内生乳、カカオ豆など） 容量変更などによる原価低減+4
マーケティング費用等の変動		+2	： 宣伝費の減少、販売間接費の増加など
その他費用の変動		+7	： 一般管理費の減少など
その他（子会社損益含む）		△8	： 海外事業拡大のための先行投資費用など
25年度1Q実績	136		

続いて、資料2ページ。食品セグメントの決算概要です。

売上高は2,248億円、前年同期比0.5%減となりました。

営業利益は136億円、前年同期比1.1%増となりました。

価格改定によって原材料コストアップや数量減の影響を吸収しました。

コスト面では、販売間接費の増加もありましたが、宣伝費や一般管理費の減少などにより、セグメント全体ではほぼ前年同期並みの営業利益となりました。

食品：2025年度 第1四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	デイリー	カカオ	ニュートリ ション	フード ソリューション	その他
24年度1Q営業利益	135	48	22	41	16	5
売上増減	+41	△0	+36	△8	+17	△4
原価の変動	△41	△2	△20	△7	△10	△2
経費等の増減	+9	+10	△2	+2	△4	+4
マーケティング費用等 の変動	+2	+9	△2	△1	△4	+1
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+7 (△1)	+0	+0	+4	△0	+3
その他 (子会社損益など)	△8	+4	△6	+3	△1	△8
25年度1Q営業利益	136	60	31	31	17	△4

3 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

事業別の利益増減要因をご説明します。3 ページ目をご覧ください。

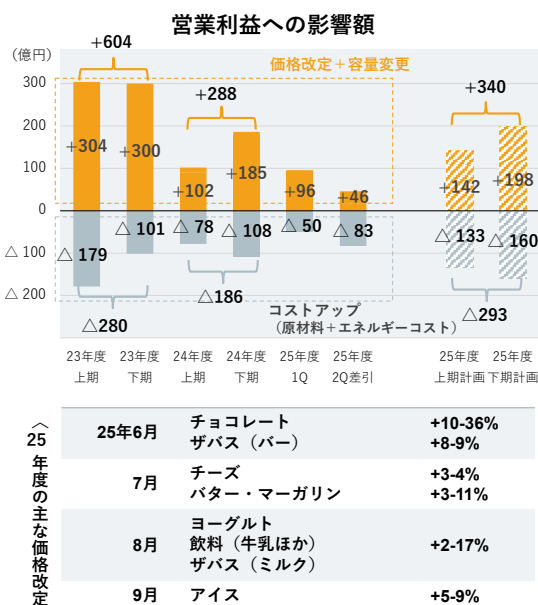
「売上増減」は、価格改定の実施によりカカオ事業や、フードソリューション事業で増益要因となりました。一方で、ニュートリション事業は、乳幼児ミルクやスポーツ栄養の数量減により、減益要因となりました。なお、食品セグメント全体での売上増減プラス41億円の内訳は、価格改定効果がプラス92億円、数量やプロダクトミックスの影響がマイナス51億円です。

「原価の変動」マイナス41億円の内訳は、原材料コストの上昇がマイナス45億円、容量減などによる原価低減効果がプラス4億円となっています。このうち、カカオ原料の相場上昇によるコストアップが大きく、カカオ事業やフードソリューション事業で、マイナス影響が大きくなりました。また、生乳価格については、6月からの加工向けの乳価改定の影響が、主にフードソリューション事業に発生しています。8月から飲用向け・発酵乳等向けの改定もありますので、第2四半期以降はデイリー事業でも生乳価格アップの影響が発生する見込みです。

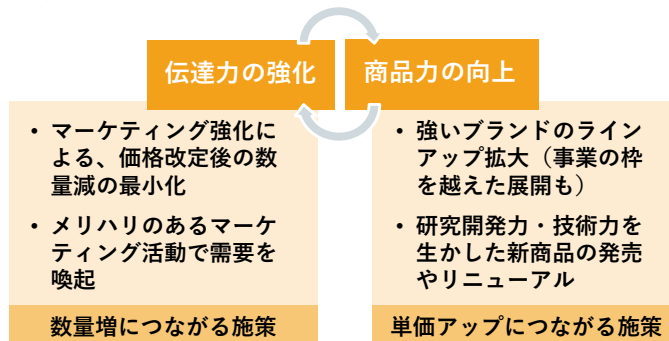
「マーケティング費用等の変動」は2億円の増益要因となりました。営業系のシステム導入により、各事業で販売間接費が増加しましたが、デイリー事業の宣伝費が減少しました。前期は第1四半期に多く投入しましたが、今期は8月からの価格改定に合わせて第2四半期に投入する計画です。

「その他・子会社損益」は8億円の減益要因となりました。海外事業拡大のための先行投資費用の計上などによるものです。

食品：スピード感を伴ったコストアップへの対応を継続



- 1Qはカカオ原料や国内生乳を中心に50億円のコストアップ
- 2Qはさらにコストアップが進むが、上期計画に対しては想定通りに進捗
- カカオリカー内製化やスペック変更など、コストアップ対策に引き続き取り組む
- 数量減影響に対しては、既存ブランド強化・新商品投入に加えて、積極的なマーケティング投資でカバー



次に、全事業に関わるコストアップへの対応について説明します。

左上のグラフのとおり、24年度下期から再びコストアップ額が増えてきています。

1Q時点ではコストアップに対して価格改定効果が大きく出ていますが、数量減も発生しており、全体としては想定通りの進捗です。

2Qは、カカオ原料や国内生乳などのコストアップが拡大しますが、カカオリカーなどは内製化にも取り組んでおり、コスト削減の効果も出てきています。

様々なモノが値上がりする中、価格改定による数量への影響が今後一層懸念されますが、既存ブランド強化や新商品投入、マーケティング投資も積極的に行い、数量減を最小化し、収益を確保することに努めます。

食品：2025年度 第1四半期 事業概況

■ デイリー事業

(億円)	25年度 1Q実績	前年同期比	25年度 上期計画	前年同期比
売上高	669	△0.5% △3	1,373	+1.3% +17
うち、国内	660	△0.7% △4	1,353	+1.1% +14
海外	9	+12.4% +1	19	+17.7% +2
営業利益	60	+23.7% +11	107	+2.6% +2
うち、国内	66	+9.3% +5	129	+2.0% +2
海外	△5	— +5	△22	— +0

国内主力品の売上高※(億円)

※(株)明治単体、収益認識基準適用前実績

	1Q実績	前年同期比	上期計画	前年同期比
プロバイオティクス	223	△1.3%	446	+0.3%
ヨーグルト	206	+5.2%	403	+2.7%
市販・宅配牛乳	190	△0.9%	424	+6.3%

■ 国内

● 市場(1Q)

- ヨーグルト(機能性含む)：+3~4%
- 牛乳：△3~4%

● プロバイオティクスは市販は堅調。宅配の回復が課題(市販+0.3%・宅配△6.8%)

● R-1の市販向けは堅調(市販+1.9%・宅配△5.1%)

● ブルガリアは主力のプレーンタイプが伸長

● 宣伝費の減少により増益

■ 海外

● 中国でリバイバルプランを着実に実行

● 2Q発売の「明治おいしい牛乳」の伸長に期待

● 不採算取引や販売体制の見直しなどが収益性改善に寄与

続いて、事業別に説明してまいります。

まずはデイリー事業です。

国内では、市販のプロバイオティクス全体では前年をクリアしています。一方で、宅配は引き続きダウントrendが継続しており、売上回復に向けたテコ入れが急務となっています。

ブルガリアヨーグルトは、主力のプレーンタイプを中心に伸長しました。価格と品質のバランスがあらためて評価されていることに加え、米の価格高騰の影響によりヨーグルトを朝食で食べる機会が増加したことが寄与しました。

海外では、中国事業のリバイバルプランを着実に進めています。不採算取引や販売体制の見直しなどにより、収益性の改善も進んできましたので、今後は良質な売り上げの拡大に取り組みます。

また、7月29日から発売となった「明治おいしい牛乳」に期待しています。

食品：2025年度 第1四半期 事業概況

■ カカオ事業

(億円)	25年度 1Q実績	前年同期比	25年度 上期計画	前年同期比
売上高	387	+3.9% +14	787	+6.4% +47
うち、国内	248	+9.8% +22	467	+5.1% +22
海外	138	△5.3% △7	319	+8.4% +24
営業利益	31	+37.2% +8	37	+20.4% +6
うち、国内	34	+72.2% +14	40	+61.2% +15
海外	△3	— △6	△2	— △8

国内主力品の売上高※ (億円)

※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

	1Q実績	前年同期比	上期計画	前年同期比
チョコレート	252	+9.0%	470	+4.9%

■ 国内

● 市場 (1Q)

- チョコレート：+8～9%
- グミ：+17～18%

● チョコレートは価格改定に加えて、チョコレートスナックなどの主力品が好調に推移

● グミは新商品が寄与し好調に推移

● 価格改定効果により増益

■ 海外

● 米国が好調に推移したものの、為替影響により減収

● 中国の原材料高騰などにより減益

続いて、資料6 ページ、カカオ事業についてご説明します。

国内では、チョコレートは、昨年度からの価格改定によるプラス効果に加え、チョコレートスナックなどが好調に推移しました。

グミは、昨年度までは収益性確保のための商品整理や生産体制の変更を進めた影響で減収が続いていましたが、果汁グミの新商品が寄与し好調に推移しました。

海外では、米国でmeijiブランド品が伸長しましたが、為替の影響などにより減収となりました。

また、利益面では、中国における原材料の高騰などが影響し、減益となりました。

食品：2025年度 第1四半期 事業概況

■ ニュートリション事業

(億円)	25年度 1Q実績	前年同期比	25年度 上期計画	前年同期比
売上高	291	△4.5% △13	640	+2.8% +17
うち、国内	262	△5.3% △14	580	+1.9% +10
海外	28	+2.9% +0	60	+11.6% +6
営業利益	31	△25.5% △10	81	△5.7% △4
うち、国内	30	△36.5% △17	84	△8.7% △7
海外	1	— +6	△3	— +3

国内主力品の売上高※ (億円)

※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

	1Q実績	前年同期比	上期計画	前年同期比
乳幼児ミルク・流動食	157	△7.6%	355	+2.4%
スポーツ栄養	133	△1.3%	279	+1.3%

■ 国内

- 市場 (1Q)
 - ・ スポーツプロテイン (飲料) : △1~△2%
- 乳幼児ミルクはインバウンド縮小により大幅減収
- 「ザバス (粉末)」は競争激化により減収
- 「ザバスミルク」は堅調に推移
- 原価アップに加え、減収により減益

■ 海外

- 台湾の乳幼児ミルクが伸長
- 前期発生した事業拡大のための先行投資費用の反動により増益

続いて、資料7ページ、ニュートリション事業です。

国内では、乳幼児ミルクが、インバウンド需要縮小の影響などにより、大幅な減収となりました。

スポーツプロテインは、飲料タイプのザバスミルクが堅調に推移しましたが、粉末タイプのザバスが廉価品の参入による競争激化の影響を受け、減収となりました。

海外では、台湾で乳幼児ミルクが伸長しました。

海外の営業利益については、前期に事業拡大に向けた先行投資費用の発生がありましたので、今期はその反動により増益となりました。

食品：2025年度 第1四半期 事業概況

■ フードソリューション事業

(億円)	25年度 1Q実績	前年同期比	25年度 上期計画	前年同期比
売上高	487	+1.2% +5	1,040	+4.7% +46
うち、国内	448	+2.6% +11	953	+2.8% +25
海外	39	△12.4% △5	87	+31.2% +20
営業利益	17	+10.1% +1	71	+79.6% +31
うち、国内	26	+9.2% +2	77	+24.9% +15
海外	△8	— △0	△5	— +16

国内主力品の売上高※ (億円)

※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

	1Q実績	前年同期比	上期計画	前年同期比
BtoB	235	+5.0%	482	+4.2%
市販チーズ	70	+6.3%	137	+5.6%
市販アイスクリーム	129	+0.8%	311	+2.7%

■ 国内

- BtoBは価格改定効果に加え、提案強化が増収に寄与
- チーズは主力のカマンベールチーズが好調に推移
- 市販アイスクリームは付加価値型商品が伸長
- BtoBの増収などにより増益

■ 海外

- 中国の業務用牛乳や市販用アイスクリームが減収
- 中国の市販アイスクリームの減収により減益

続いて、資料 8 ページ、
フードソリューション事業についてご説明します。

国内では、BtoBは、価格改定に加えて、クリームやカカオの提案強化が増収に寄与しました。

チーズも主力の十勝カマンベールチーズが伸長しました。

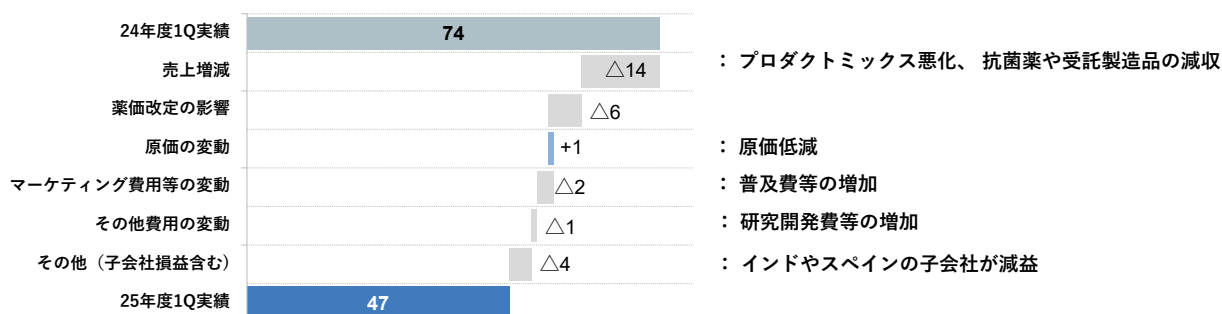
海外では、中国事業は、カフェチェーンにおいて、ブラックコーヒーやフルーツフレーバー品が伸長し、ラテの消費が減少したことで、牛乳販売が苦戦しました。

アイスクリームも競争激化に加え、ECチャネルの台頭により、他のチルドデザートとの競合が発生し、減収となりました。

医薬品：2025年度 第1四半期 決算概要

(億円)	24年度 1Q実績	25年度 1Q実績	前年同期比	上期計画 進捗率	25年度 上期計画
売上高	529	490	△7.3% △38	39.1%	1,253
営業利益	74	47	△35.5% △26	38.9%	123

営業利益 増減分析



続いて、資料9ページ。医薬品セグメントです。

売上高は490億円、前年同期比7.3%減となりました。

営業利益は47億円、前年同期比35.5%減となりました。

営業利益の増減分析について、売上増減は14億円の減益要素となりました。プロダクトミックスの悪化に加え抗菌薬や受託製造品の減収が影響しました。

薬価改定の影響は、6億円の減益要素、原価の変動については1億円の増益要素となりました。一方、コスト面では、血漿分画製剤やコスタイベの普及費が増加したことや、研究開発費の増加などで、合わせて3億円の減益要素となりました。

なお、研究開発費の進捗は計画通りです。コスタイベの2人用バイアルに関連して、第2四半期は前年より大幅に増える見込みです。

子会社損益は4億円の減益要素となりました。

インドやスペインの子会社が減益となりました。

医薬品：2025年度 第1四半期 主要領域別概況

(億円)		25年度 1Q実績	前年同期比	25年度 上期計画	前年同期比
国内事業	感染症領域※1	90	△16.6% △17	233	+6.9% +15
	スルバシリン	28	△19.0% △6	78	+9.8% +7
	タゾビベ	19	+8.1% +1	52	+34.4% +13
	メイアクト群	11	△32.2% △5	39	+20.6% +6
	免疫炎症領域※1	81	+46.0% +25	129	+19.7% +21
	血漿分画製剤	46	+27.3% +9	70	+6.3% +4
	レズロック	20	+1,188.4% +18	24	+218.0% +16
	中枢神経系（CNS）領域※1	48	△28.8% △19	102	△6.8% △7
	ジェネリック医薬品※2	55	+6.2% +3	113	+13.7% +13
	ワクチン・動物薬事業	38	+13.3% +4	265	+21.9% +47
海外事業	インフルエンザワクチン	△6	— △0	171	+4.0% +6
		152	△18.3% △34	358	+6.7% +22

※1 各領域のジェネリック医薬品含む
※2 各領域に含まれないジェネリック医薬品のみ

続いて、資料10ページ。主要品の販売状況について説明します。

感染症領域では、前期好調の反動に加え、抗菌薬市場において他社の限定出荷が解除されたことや、前期ほど感染症の流行がなかったことなどにより、減収となりました。

免疫炎症領域では、昨年5月に発売した「レズロック」や、血漿分画製剤が伸長しました。

中枢神経系領域では、薬価改定影響に加えて、受託製造品の出荷タイミングが前期とズレたことなどにより減収となりました。

ヒト用ワクチンは、小児用ワクチンの4混から5混への切り替えがうまく進んだことで、増収となりました。

海外事業については、インドやスペインの子会社が、為替影響に加え、前期好調の反動により減収となりました。

2025年度計画：上期・通期ともに変更なし

(億円)	24年度実績		25年度計画			
	上期	通期	上期	前年同期比	通期	前期比
売上高	5,690	11,540	5,890	+3.5% +199	11,950	+3.5% +409
営業利益	443	847	395	△11.0% △48	910	+7.4% +62
営業利益率	7.8%	7.3%	6.7%	△1.1 pt	7.6%	+0.3 pt
親会社株主に帰属する当期純利益	268	508	225	△16.3% △43	540	+6.3% +31
EPS	97.66円	186.08円	82.41円	△15.25円	197.80円	+11.71円
1株当たり配当金	50.00円	100.00円	52.50円	+2.50円	105.00円	+5.00円
総還元性向	—	112.8%	—	—	—	—
ROE	—	6.8%	—	—	7.0%	+0.2 pt
ROIC	—	6.8%	—	—	7.0%	+0.2 pt
設備投資額	353	566	541	+53.1% +187	1,184	+109.2% +618
営業CF	37	689	—	—	700	+1.5% +10
フリーCF	△84	283	—	—	△490	— △773

11 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

最後に、資料11ページをご覧ください。
今期の見通しについてです。

第1四半期の業績は、上期・通期計画に対して堅調に進捗している状況となっておりますので、現時点では、5月に発表した期初計画数値に変更はありません。

食品セグメントの営業利益については、ニュートリション事業や中国アイスクリーム事業は厳しい状況が続いており、国内生乳やカカオ原料のコストアップの影響も引き続き受ける状況にありますが、1Q好調であったデイリー事業やカカオ事業でカバーし、上期計画達成を目指します。

医薬品ではワクチン事業がポイントです。

9月から出荷がはじまるインフルエンザワクチンの早期出荷に取り組むことに加え、レプリコンワクチン「コスタイベ」の2人用バイアルの着実な上市と、ワクチン全体の接種率拡大に向けた普及活動を計画通り遂行してまいります。

以上で私からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

2025年度 第1四半期 連結営業利益増減分析

(億円)	連結	食品	医薬品	他
24年度1Q実績	204	135	74	△4
売上増減	+27 *1	+41	△14	—
薬価改定の影響	△6	—	△6	—
原価の変動	△40 *2	△41	+1	—
経費等の増減	+6 *3	+9	△3	—
その他（子会社損益含む）	△14	△8	△4	△2
25年度1Q実績	177	136	47	△7

*1： 価格改定効果を含む

*2： 主な内訳 【食品】 原材料コスト増（国内生乳、カカオ豆など）△45、その他（容量変更など）+4
【医薬品】 原価低減+1

*3： 主な内訳 【食品】 マーケティング費用等の変動+2、その他費用の変動+7
【医薬品】 マーケティング費用等の変動△2、その他費用の変動△1

食品：2025年度 第1四半期 海外事業概況

■ 地域別

(億円)

		25年度 1Q実績	前年 同期比	25年度 上期計画	前年 同期比
中国	売上高	59	△7.7% △4	148	+30.6% +34
	営業利益	△18	— +3	△27	— +19
アジア	売上高	64	△5.1% △3	160	+5.4% +8
	営業利益	6	+8.5% +0	6	△18.8% △1
欧米	売上高	91	△6.0% △5	204	+7.1% +13
	営業利益	4	+11.3% +0	5	△36.6% △2
海外計	売上高	213	△6.0% △13	486	+12.6% +54
	営業利益	△26	— △2	△35	— +11

■ 中国事業

(億円)

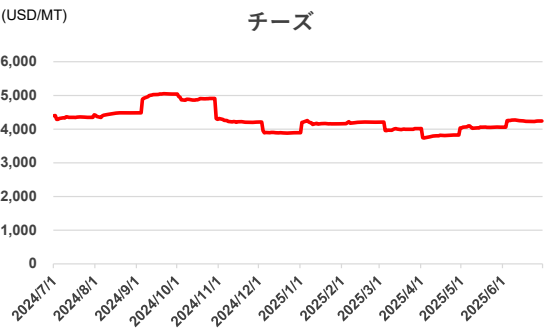
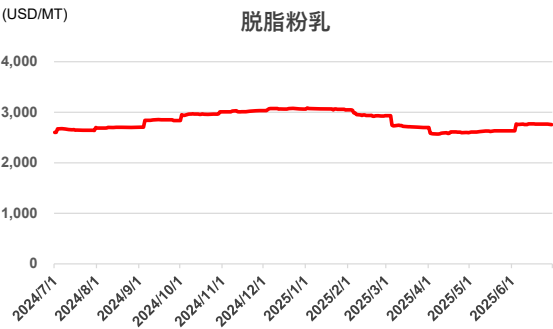
	25年度 1Q実績	前年 同期比	25年度 上期計画	前年 同期比
売上高	59	△7.7% △4	148	+30.6% +34
デイリー	8	+12.2% +0	18	+19.1% +2
カカオ	16	+1.5% +0	45	+26.1% +9
ニュートリション	0	△99.5% △0	4	+288.0% +3
フードソリューション	35	△14.1% △5	79	+31.7% +19
営業利益	△18	— +3	△27	— +19
デイリー	△4	— +5	△15	— +3
カカオ	△6	— △2	△8	— △2
ニュートリション	△0	— +1	△2	— +0
フードソリューション	△7	— △1	△0	— +17

食品：2025年度 第1四半期 主力品の売上動向

(億円)

	24年度 1Q実績	25年度 1Q実績	前年同期比	上期計画 進捗率	25年度 上期計画
プロバイオティクス ヨーグルト	226	223	△1.3%	49.9%	446
ヨーグルト	196	206	+5.2%	51.1%	403
市販・宅配牛乳	192	190	△0.9%	45.0%	424
チョコレート	231	252	+9.0%	53.7%	470
乳幼児ミルク・流動食	170	157	△7.6%	44.2%	355
スポーツ栄養 (ザバスミルク含む)	135	133	△1.3%	47.7%	279
BtoB	224	235	+5.0%	48.7%	482
市販チーズ	66	70	+6.3%	51.3%	137
市販アイスクリーム	128	129	+0.8%	41.4%	311

主要輸入原料相場の動向



医薬品：2025年度 第1四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	医薬品 全体	国内	海外	ワクチン・ 動物薬
24年度1Q営業利益	74	61	30	△17
売上増減	△14	△12	△2	+1
薬価改定の影響	△6	△6	—	+0
原価の変動	+1	+1	+0	△0
経費等の増減	△3	△2	+3	△4
マーケティング費用等の変動	△2	△0	△0	△2
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△1 (△2)	△2	+3	△2
その他 (子会社損益など)	△4	+3	△10	+2
25年度1Q営業利益	47	43	22	△18

医薬品：2025年度 第1四半期 事業別概況

■ 国内事業

(億円)	25年度		25年度	
	1Q実績	前年同期比	上期計画	前年同期比
売上高	275	△3.0% △8	579	+7.9% +42
営業利益	43	△28.4% △17	83	△23.3% △25

● 売上高

- 受託製造品や「スルバシリン」「メイアクト」が減収
- 24年5月発売「レズロック」や血漿分画製剤は伸長

● 営業利益

- 減収やプロダクトミックスの悪化、薬価改定の影響により大幅減益

■ 海外事業

(億円)	25年度		25年度	
	1Q実績	前年同期比	上期計画	前年同期比
売上高	152	△18.3% △34	358	+6.7% +22
営業利益	22	△26.1% △7	23	△32.5% △11

● 売上高

- 為替影響に加え、インドやスペインの子会社が減収

● 営業利益

- インドやスペインの子会社の減収による減益

医薬品：2025年度 第1四半期 事業別概況

■ ワクチン・動物薬事業

(億円)	25年度		25年度	
	1Q実績	前年同期比	上期計画	前年同期比
売上高	62	+6.9% +3	316	+18.4% +49
営業利益	△18	— △1	17	△60.7% △26

● 売上高

- 5種混合ワクチンの増収

● 営業利益

- ワクチン普及費用の増加等により営業損失拡大

医薬品：開発パイプラインー1

	開発コード名（一般名）	薬効/作用	予定適応症	開発段階
感染症領域	OP0595* （ナキュバクタム）	β-ラクタマーゼ阻害薬	カルバペネム系抗菌薬に耐性を示す菌株による各種感染症	Phase III（日本・海外）**
免疫領域	KD-380 （10%液状人免疫グロブリン）	血漿分画製剤	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）患者及び多巣性運動ニューロパチー（MMN）患者の急性期治療、維持療法	Phase III（日本）
	KD-416* （血液凝固第X因子製剤）	血漿分画製剤	血液凝固第X因子欠乏症患者の出血傾向の抑制	Phase III（日本）
新領域	ME3208 （ベルモスジル）	ROCK2阻害剤	慢性移植片対宿主病(cGVHD)治療薬	発売（日本）：製品名 レズロック錠200mg （2024年5月22日発売） 発売（韓国）：製品名 REZUROCK Tablets （2024年11月発売） 承認（台湾） 申請（タイ）
	DMB-3115 （ウステキスマブ後続品）	バイオ後続品	尋常性乾癬/関節症性乾癬/クローン病 /潰瘍性大腸炎	発売（欧州・英国）：製品名IMULDOSA （2025年1月以降順次発売） 承認（米国） 申請（海外） Phase I（日本）
	HBI-8000 （ツシジノスタット）	ヒストン脱アセチル化酵素（HDAC）阻害剤	切除不能または転移性悪性黒色腫治療薬	Phase III（日本・海外）**
	ME3183*	PDE4阻害剤	乾癬治療薬	Phase II（海外）
	HBI-8000 （ツシジノスタット）	ヒストン脱アセチル化酵素（HDAC）阻害剤	再発・難治性B細胞性非ホジキンリンパ腫治療薬	Phase Ib / II（日本）**

*自社創製
**国際共同治験

医薬品：開発パイプラインー2

	開発コード名	薬効/作用	予定適応症	開発段階
ワクチン	コスタイベ筋注用	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（成人・レプリコンワクチン）、16人用バイアル製剤	発売（日本） ※2024年9月13日に一部変更承認(オミクロン株JN.1)
	コスタイベ筋注用	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（成人・レプリコンワクチン）、2人用バイアル製剤	申請（日本）
	コスタイベ筋注用	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（レプリコンワクチン）	Phase III（12～17歳）（日本）
	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（成人・不活化ワクチン：起源株）	Phase III（18～40歳）**（日本）
	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（小児・不活化ワクチン：起源株）	Phase III（6か月～11歳）（日本）
	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（小児・不活化ワクチン：オミクロン株）	Phase III（6か月～12歳）（日本）
	KD2-396	ワクチン	百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型、B型肝炎ウイルスによる感染症の予防（6種混合ワクチン）	Phase II（日本）
	KD-382	ワクチン	デング熱の予防（4価弱毒生ワクチン）	Phase I（海外）

*自社創製
**国際共同治験

	開発コード名	薬効/作用	開発段階
動物用医薬品	ME4137	抗菌性注射剤（豚）	発売（日本）：製品名フォーシルS （2025年1月6日発売）
	KD-412*	ワクチン（牛）	承認（日本）
	MD-22-3002	抗炎症剤（牛、豚、馬）	承認（日本）
	ME4305*	抗菌性製剤（牛）	開発中
	MD-22-1001-1	抗菌性注射剤（牛）	開発中
	ME4406*	飼料添加物	開発中

*自社創製

健康にアイデアを
meiji

・本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。

・本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

・本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。

・本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としたものではありません。